

# 1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 - )

事業所番号	0691900146		
法人名	特定非営利活動法人ひのき		
事業所名	グランページあすなる川樋		
所在地	山形県南陽市新田577		
自己評価作成日	令和 5年 1月 20日	開設年月日	令和 3年 6月 1日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設で生活していると感じさせないアットホームな雰囲気作りをし家庭的な雰囲気でご利用者様に生活を送って頂いている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/>

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目3番31号		
訪問調査日	令和 5年 1月 30日	評価結果決定日	令和 5年 2月 21日

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

一棟の建物にグループホームと小規模多機能型事業所があり互いに親近感を持って生活しています。「目配り・気配り・心配り」をキャッチフレーズに、職員は常に心に置いて活動しており、利用者の健康状態には特に気を配り、毎週来訪する訪問看護師とのやり取りにも細かく対応しています。平日頃話し相手になりながら、変化を見逃さず何事も自己決定出来るように、寄り添った介護を実践しています。県縦断駅伝を近隣の人々と応援するのも楽しみ事の一つで、地域住民の一人として参加しています。コロナ禍で取り巻く情勢は厳しいものがあるが、職員は仕事し易く、直ぐに馴染める職場の雰囲気の中で助け合い、学び合いながら介護力を高め役に立ちたいと考えている事業所です。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~54で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
55	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	62	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
56	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
57	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
58	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
59	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
60	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:29,30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己 外部	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設時は法人理念のみだったが事業所の理念を職員で作成し、それをもとに取り組んでいる。	事業所理念を職員で作成し、朝の申し送り時に唱和し一日を始めている。利用者には何をしたいのか問いかけ、職員の関係の良さをフルに活かし、自己決定出来るように導いている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍により直接交流できていないが書面にて運営推進委員会を通じて地域とのつながりを維持している	地区の夏祭り、県縦断駅伝の応援などで地区の人々と交流の機会もあったが、コロナ禍により中止になっている。地区会長が広報紙を届けてくれた時に情報をもらっている。繋がりが希薄になっている今、地域とどのような関わりが出来るのだろうかと考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍によりオレンジカフェなどが出来なくなっている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナの影響で書面での報告に留めている	運営推進会議は同一法人の小規模多機能型事業所と合同で行っているが、感染症対策で書面会議となっている。事業所の利用状況や行事活動報告・ヒヤリハット等をまとめメンバーに郵送している。家族等には来訪時状況を話し見てもらい、職員にはミーティングで報告し共有している。	事業所の現況を詳しく記述しているが、メンバーから意見や感想を電話で確認するなど何らかの方法を考え、意見をもらい双方向的な会議になるよう期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	南陽市高齢福祉課との連携を図り情報共有している	市担当者とは会議録を届けた時などに話をしていく。福祉関係情報など、専門的な事で不明点などを聞き助言をもらい、サービスに活かしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	内部研修により実践している。	「身体拘束等の適正化のための指針」の基、職員全員がメンバーとしてオンラインを利用した研修を行っている。言葉の拘束については、全体会議の中で事例を出して検討し、指針を頭に置いてケアしている。家族等にも報告し理解を得ている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングにて職員全員で知識の向上に努めている			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在成年後見人を利用している利用者は在籍しておりません。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者ご家族様には契約時丁寧な説明のもと納得をいただいで契約して頂いている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族アンケートにて意見をお聞きし、会議にて周知している。	感染症対策の一部として面会は条件付きであるため、電話で話をしてもらっている。請求書を送る際、近況報告と写真を沢山入れた通信と一緒に送り、また、こまごまとした情報を電話で伝え、家族等に安心してもらえるよう気配りしている。必需品や利用料を届けてくれた時などにも話を聞き、申し送りノートで職員と共有を図っている。		
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングにて意見交換している			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員同士意見交換しより良い職場環境作りに努めている			
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナの影響で外部研修出来ておらず、内部研修で職員のスキルアップに努めている。	研修会はケアマネジャーが担当し毎月1回行い、議事録に記載している。外部研修は現在の状況から、介護フォローアップのみオンラインで受けている。業務中は職員間で助け合い、見て覚える事も必要と言葉を掛けながら、質の高い介護が出来るよう学び合っケアを行っている。	各種マニュアルが整備されていないようだが、業務の振り返りや統一したケア実践のためにも必要不可欠な手順書と思われる。掲示してある既存のものからマニュアルとして構成する事に期待したい。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	コロナの影響により同組織の交流が出来ておりません	山形県グループホーム連絡協議会に加入しているが、コロナ禍により交流は行われていない。月1回、法人の管理者会議があり情報をもらい活用している。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	常に利用者の声に耳を傾けて安心してもらっている			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前アセスメント、入居後はお便りにより家族との関係作りを行っている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に話し合い、本人家族のニーズ把握に努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の意思を尊重し、日常作業が出来る利用者様と出来る事を行っている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様に関して家族に連絡し家族と交流している			
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の希望を聞いてこれまでの経験を活かせる支援が出来るように努めている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入り、利用者間の関係がうまくいくように支援している。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後でも相談があれば対応している。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人一人の話に耳を傾け把握できているように	意思疎通が図れている利用者には聞き取りを行い、問いかけて自己決定の機会が持てるよう配慮している。関わりの中で職員から物事を押し付けない事、また、馴れ合いにならないよう意識してケアにあたっている。認知症が進み訴えられない人もいるが、職員の観察力で見極め、不安のない生活を送ってもらっており、笑顔やありがとうの言葉で満足している事を察している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントや家族との会話からなじみの物を利用した支援を心掛けている			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の日々の行動心身の状況をきちんと把握し職員間で情報共有できるように努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランの現状をカンファレンスで話し合い担当者とは細やかなケアが出来るよう介護計画に活かしている。	介護計画作成時には、その人らしい生活を送れるようにするには何が必要かを検討する事を一番大切に考えて立案している。利用者が経験してきた事を聞き取り、月1回のミーティングで話し合い周知しており、今出来る事が長く続けられるようにプラン作りをしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録や業務日報にご利用者の様子を記入し職員間で情報共有している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>コロナの影響で地域との交流が出来ていない状況にある。</p>		
29	(11)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>往診や医療デイケアを利用し支援を受けている。</p>	<p>ほとんどの利用者が協力医による月2回の往診を受け主治医となっており、希望者には歯科医の定期訪問診療も行われている。他科受診の付き添いは家族等の協力を得て、結果も共有している。毎週訪問看護師の来訪があり、一人ひとりの相談事や情報交換などをして利用者・家族等・職員の安心に繋がっている。</p>	
30		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>訪問看護ステーションの協力を受け利用者の健康管理を受けている</p>		
31		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>介護サマリー、入退院サマリー、お薬情報を準備し速やかな入退院が出来るよう情報提供している。</p>		
32	(12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>現状対応出来る内容をご家族説明させて頂き十分理解して頂ける様に努めている。</p>	<p>契約時に、医療的な処置が出来ない為看取りはしない事を家族等に説明し、書面で同意を得ている。主治医の判断でホームでの生活が困難になった時は主治医・家族等・職員で話し合い、入院や他施設に申し込み・入所など今後の方針を統一して希望に沿えるようにしている。</p>	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
33		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員全員が救急救命講習を受けており、実践出来る様心掛けている。			
34	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急連絡網の作成、避難訓練の実施、有事の際の物資の確保をしている。	今年度は4月と10月に併設する小規模多機能型事業所と合同で、火災を想定した避難訓練を実施している。近隣に非常時の協力依頼や非常持ち出し物・水・食料品などを備蓄して災害に備えている。	自然災害を含めたあらゆる災害・時間帯を想定した訓練の実施を検討し、総評の反省点を次回に繋がるような取り組みに期待したい。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
35	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使い、接遇を意識してご利用者の人格の尊厳、プライバシー保護を心掛けている。	居室入り口や風呂・トイレ使用時の扉は開けっ放しにしないなどプライバシーに配慮し、強い言葉・慣れ合い言葉遣いにならないように職員は心掛けている。洗濯物たたみや食事作りなどの手伝いに得意分野を發揮してもらい、外出時の服装や身だしなみに気遣うなど生活に張り合いがもてるように支援している。		
36		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の自己決定を促すような声掛けを意識している。			
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の生活の中に個別に趣味活動出来るように配慮している。			
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服は利用者様が選べるように支援している。			
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日々の食事でも彩や季節を感じれる食材をなるべく使用して提供するように努めている	買い物・献立作りから3食手作りにこだわり、温かく出来立ての食事を提供している。特に昼食は利用者と同年代に近い調理専門職員が調理し、季節毎に地元の食材を使った郷土料理は好評で食欲増進に繋がっている。お粥・刻み・ミキサー・とろみなどの食事形態にも対応し、出前・行事食なども楽しみにしている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	禁忌に注意を払い、食事量の把握、水分量のチェックを行っている			
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事後は必ず口腔ケアを促し、誤嚥性肺炎を予防している。			
42	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	定時のトイレ誘導、声掛け行い、排泄チェックの記入し排便確認を行っている。チェックを確認し排便確認の情報を職員間で情報共有している。	排泄チェックはタブレットに記入して管理を行って職員間で共有し、3日間排便がない場合は主治医からの薬を使用してコントロールしている。自立の方は自由に、訴えのない利用者には定時に声掛けして誘導し、現状を維持しながらなるべくトイレで排泄出来るように支援している。		
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤の使用にて排便のない期間毎に服薬して排便コントロール行っている			
44	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	体調をしっかりと確認のもと、本人の気分や希望を尊重しながら入浴支援している。	体調に配慮しながら午後の時間帯に曜日を決めて週2~3回を目安に入浴している。身体状況に応じて特殊浴槽を利用し、入浴中、職員は必ず付き添って目を離さない事で危険防止に努め、希望の湯温・入浴剤などの使用で気持ち良く入ってもらえるように支援している。職員と1対1になる個室で会話も弾み本音が聞ける時もある。		
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各個人の居室でゆっくりと休んで頂ける様に環境整備に努めている。			
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理場所を固定し確認できるようにしている。薬の情報は職員間で共用できるように申し送りを行っている			



自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事手伝いが出来る利用者様には強要せず、お願いする際は常に低姿勢でお願いするようにしている			
48	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの影響でなかなか外出する機会を持っていない状況にある。	人気のあるドライブに出かけているが、コロナ禍の為人込みを避けて車窓から景色を眺めて季節を感じてもらっている。外出に代わる物として、資格を持っている職員の誘導で利用者は楽器や手拍子で音楽に合わせ、また手足を動かして体操を楽しみながらミュージックケアを開催し、ストレス解消にもなっている。		
49		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力にに応じて、お金を所持したり使えるように支援している	トラブル防止の観点から現金の持ち込みはお断りしている。			
50		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	コロナの影響でなかなか直接面会できないご時世な状況である為、電話にてお話しはしている。			
51	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	敷地内、施設内の美化活動として花を植えたり、花を飾ったりして目で季節を感じて頂ける様に努めている。	ホールには生花や利用者の作品を壁に飾り、季節を感じてもらえるよう工夫している。利用者同士の相性を考慮した座席や、皆が集まりレクリエーションを楽しむ場所として疑似家族のようなアットホームな雰囲気作りを心掛けている。換気や手指消毒の声掛けを励行して感染予防対策もしている。		
52		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様が個々にしたい事が出来るように居場所づくりを工夫している			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
53	(20)	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>危険を伴わないものであれば自由に持ち込みして頂いている。</p>	<p>居室にはエアコン・ベッドが備え付けてあり、使い慣れた物を自由に持ち込み、壁に作品や写真を飾り自分好みの部屋作りをしている。夜間の定時巡視やナースコール・足元センサー利用などで安心して過ごせるようにしており、入居に慣れるまで個人差はあるが職員は寄り添いながら見守っている。</p>		
54		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>本人の出来る事、出来ないことを把握してできないことに手を貸す支援を意識している。</p>	/	/	